

「特別の教科 道徳」の充実に向けて

北海道教育庁学校教育局義務教育課

平成27年3月に一部改正学習指導要領が公示され、「道徳」が「特別の教科 道徳」になり、小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から全面実施となります。各学校においては、学習指導要領改正の趣旨を踏まえた道徳教育の充実に向け、準備を確実に進めることが求められています。

1 道徳教育の指導方法の課題

これまで、道徳の授業における指導方法等に関して、次のような課題が指摘されてきました。

◎授業方法が、単に読み物の登場人物の心情を理解させるだけなどの型にはまったものになりがちである。

◎現代の子どもたちにとって、現実味のある授業となっておらず、学年が上がるにつれて、道徳の時間に関する子どもの受け止めがよくない。

◎道徳の時間の授業で何を学ばせようとしているのかを子どもたちにも理解させた上で、具体的に実践させたり、振り返らせたりする指導が十分でない。

◎道徳の時間の指導が道徳的価値の理解に偏りがちで、自分の思いを伝え、相手の思いを酌むためには、どうしたらよいかという側面に関する教育が十分でない。

こうした課題を改善するために、児童生徒の発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「**考える道徳**」「**議論する道徳**」へと転換を図ることが求められています。

2 「考え、議論する道徳」への質的転換に向けて

○ 「考え、議論する道徳」への質的転換を図ることは、道徳科における「主体的・対話的で深い学び」を実現することにもつながります。

「主体的な学び」

- ・問題意識をもつ（子ども一人一人の実態把握、必然性のある学習課題の設定 等）
- ・自分自身との関わりで考える（共通体験の想起、子どもの実態を踏まえた意図的指名 等）
- ・自らを振り返る（個人で考える場の工夫、自分自身の変容の確認 等）

「対話的な学び」

- ・協働、対話、連携（学習形態や隊形の工夫、話し合いのルール確立 等）
- ・多面的・多角的な思考（考える視点を固定化しない発問の工夫、思考の見える化 等）
- ・学級経営の充実（多様な意見を認め合える雰囲気づくり、聞く態度の指導 等）

「深い学び」

① 問題解決的な学習

児童生徒の考えの根拠を問う発問や問題場面を自分に当てはめて考えてみることを促す発問などを通じて、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる。 → P 3 授業実践例へ

② 道徳的行為に関する体験的な学習

役割演技などの体験的な学習を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解させ、道徳的価値について主体的に考えさせる。 → P 3 授業実践例へ

③ 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

教材の登場人物の判断と心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的価値の理解を深める。 → P 4 授業実践例へ

3 道徳科の授業づくりの充実に向けて

○ 道徳科の授業づくりの手順は、それぞれの状況に応じて異なりますが、おおむね次のような手順で学習指導案を作成することが考えられます。

(1) ねらいを検討する。

↓ 指導の内容や教師の指導の意図を明らかにします。

(2) 指導の重点を明確にする。

↓ ねらいに関する児童生徒の実態と、それを踏まえた教師の願いを明らかにし、各教科等での指導との関連を検討して、指導の要点を明確にします。

(3) 教材を吟味する。

↓ 教科用図書や副読本等の教材について、授業者が児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているのかを検討します。

(4) 学習指導過程を構想する。

- ねらい、児童生徒の実態、教材の内容などを基に、授業の展開について考えます。
- 児童生徒がどのような問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を理解し、自己を見つめ、多様な感じ方や考え方によって学び合うことができるのかを具体的に予想しながら、それらが効果的になされるための授業全体の展開を構想します。
- 学習指導過程の構想に当たっては、指導の流れ自体が、特定の価値観を児童生徒に教え込むような展開となることのないよう、児童生徒が道徳的価値に関わる事象を主体的に考えたり、児童生徒同士の話し合いを通してよりよい生き方を導き出したりするなどの展開を工夫することが必要です。

道徳科の指導においては、児童（生徒）一人一人が（ねらいに含まれる）道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、（道徳的価値や）自己（人間として）の生き方についての考えを深めることで道徳性を養うという特質を十分考慮し、それに応じた学習指導過程や指導方法を工夫するとともに、児童（生徒）が自らのよさや成長を実感できるように工夫することが大切です。※（ ）内は中学校

道徳性を養うために行う道徳科における学習

児童生徒が将来、様々な問題場面に出会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うことができるよう、「道徳的価値」の意義や大切さについて理解する学習を進めることが大切です。



(1) 価値理解

- 人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること
 - ・友達と仲良くすると楽しいなあ。
 - ・最後までがんばりやり遂げたときは気持ちがいいなあ。

(2) 人間理解

- 道徳的価値は大切であってもなかなか実現できない人間の弱さなども理解すること
 - ・困っている人に親切にしたいけど、声をかけるのは難しいなあ。
 - ・公共の場でうっかり迷惑をかけることがあるなあ。

(3) 他者理解

- 道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること
 - ・正しいことをするときにもいろいろな考え方があんだなあ。
 - ・一つの物事でも人によって感じ方がちがうんだなあ。

1 主題名

よいと思うことはすすんで【善悪の判断、自律、自由と責任】

2 ねらい

よいことと悪いことの区別をし、よいことを進んで行う判断力を育てる。

3 教材名

「ぼんたとかんだ」（「わたしたちの道徳 小学校1・2年」）

4 本時の展開

過程	学習活動 ○ 発問等 (◎中心的な発問) ・子どもの反応	◇ 指導上の留意点 ◆ 評価
導入	1 本時の価値を知る。 ○ アンケートの結果を見てみましょう。 ・わたしは、できると思う。 ・分かっているけど、できないときがあるよね。	◇事前に行った善悪の判断に関する児童アンケートの結果を提示し、本時の道徳的価値の方向付けをするとともに、本時の学習課題を提示する。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習課題：まよったときは、どうしたらいいのかな。 </div>		
展開前半	2 教材「ぼんたとかんだ」を読んで話し合う。 ○ 大きな声で「行かない」と言った時のぼんたの気持ちを考えましょう。 ・行きたいけど、危ないから行かないよ。 ・かんとくんも、行っちゃだめだよ。 ◎ あなたが、かんだならどうしますか。それはなぜですか。 かんだ 「行かない」 ・しかられるかもしれない。 ・ぼんたくんも行かないなら、ぼくも行かない。 「行く」 ・おもしろそう。 ・気を付ける ぼんた（役割演技） ・行ったら先生に言うよ。 ・かんとくんが、行かなくてよかった。 ○ ひみつきちに行くのをがまんしたのに、すがすがしい気持ちになったのはなぜだろう。 ・しっかり考えて行動できたから。 ・よい行動ができたから。 ○ よいことややってはいけないことをしようかやめようか迷ったときは、どうしたらいいのでしょうか。 ・よいことか悪いことかを考える。 ・自分や友だち、家族や先生のことを考える。	◇ひみつ基地の魅力を話し合うことで登場人物に共感しやすくする。 ●「考え、議論する道徳」の授業づくりに向けたポイント（P1-2①問題解決的な学習） ★問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促し、自分自身の考えの根拠を問う発問 ◆自分の判断と理由について考えている。（記述内容） ◇よいことをすることの大切さを理解させるため、行かなかった時と行った時の役割演技をする。 ●「考え、議論する道徳」の授業づくりに向けたポイント（P1-2②道徳的行為に関する体験的な学習） ★問題行為を実際に体験し、それに対して自分ならどう行動をとるかという問題解決のための役割演技 ◇迷ったときの判断基準を子どもの言葉でまとめる。
展開後半	3 今までの自分を振り返る。 ○ よいことをしたことや、してはいけないことをやってしまったことはありませんか。 ・トイレのスリッパを並べなかった。面倒だったから。今度からは、次の人のことを考えて並べようと思う。 ・いじわるをしている友だちにだめだよと言った。かわいそうだったから。言ってよかったと思う。	◇「わたしたちの道徳」を参考に、よいことやしてはいけないことについて考え話し合う。 ◇自分のことを振り返り、ノートに書く。その際、行動の理由や今の気持ちも考える。 ◆自分の行動とその理由について考えている。（発言、記述内容）
終末	4 教師の説話を聞く。 ○ 先生の話をお聞きしましょう。	◇よいことを進んでするには、勇気がいるが大切であることを感じるような説話を挙げる。

出典：文部科学省HP「道徳教育アーカイブ～『道徳科』の全面実施に向けて～」

北海道版道徳教材「きた ものがたり」～北海道の先人の生き方に学ぶ～

北海道道徳教育推進会議では、各管内の道徳教育に熱心に取り組んでいる先生方が中心になり、子どもたちが、道内各地の先人の生き方に触れ、生きることのすばらしさや意味を考えることができるよう、標記の教材を作成し、道教委義務教育課のWebページに掲載しましたので、幅広い活用をお願いします。 <http://www.dokyo.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/kyouikukatei/kitamonogatari.htm>



1 主題名

内なる自分に恥じない気高い生き方 【よりよく生きる喜び】

2 ねらい

内なる良心の声を聞いて弱さや醜さを克服しようとする二人の弟子の姿を通して、自分自身の内にある誇りある生き方や、人間として生きることの喜びを見いだそうとする態度を育てる。

3 教材名

「二人の弟子」（「私たちの道徳 中学校」）

4 本時の展開

過程	学習活動 ○ 発問等 (◎中心的な発問) ・子どもの反応	◇ 指導上の留意点 ◆ 評価
導入	<p>1 智行と道信、上人の関係や人物像について整理する。</p> <p>○ 登場人物について整理してみよう。</p> <p>【智行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地の名家の三男で、幼い頃から才覚を發揮。 ・西山寺の上人に師事し、本山での厳しい修行に耐え、立派な僧侶になった。 <p>【道信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先の戦で孤児となり、上人に育てられた。 ・都で評判の「白拍子」を好きになり、本山での修行を途中で逃げ出した。 <p>【二人の関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同年輩で励まし合いながら学問を続けてきた。 	<p>◇事前に「私たちの道徳」P127、12行目までを読ませておく。</p>
展開	<p>2 教材「二人の弟子」を読み、上人の言動を基に、智行の心の内を考える。</p> <p>○ 上人が道信を許したとき、智行が怒りを覚えたのはなぜだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が引き止めたのを振り払い出て行ったのに、今さら帰ってくることを許すことはできない。 ・自分はずいぶん修行にも耐え、一生懸命頑張ってきたのに、都合のいいことを言うな。 ・これまで好きなことをしてきた道信が許されるのはおかしい。 <p>◎ 一輪の白ゆりを見て、あふれる涙を止めることができなかった智行の心の声を考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上人に許された道信のことを妬む気持ちを抑えられない自分が恥ずかしい。 ・道信は辛い経験をしながらも、また頑張ろうとしているのに、それを受け入れられない自分は心が狭く情けない。 ・道信を許せない今の自分ではだめだ。これからの自分の人生を見つめ直していこう。 	<p>◇立場を明確にした上で、その理由を交流させる。</p> <p>※補助発問「あなたが智行の立場だったら、道信を許すことはできますか」</p> <p>●「考え、議論する道徳」の授業づくりに向けたポイント（P1-2③読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習）</p> <p>★登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めるための発問</p> <p>◇グループで話し合ったことをノートにまとめ、発表する。</p> <p>◆自己の弱さや醜さと向き合い、克服しようとしながら、よりよい生き方を探ろうとしている。（発言、記述内容）</p>
終末	<p>3 自分と向き合い、考えたことを友達と交流する。</p> <p>○ 学習を通して感じたことや考えたことを、これまでの自分について振り返ったり、これから自分が目指す生き方について触れたりしながら書こう。</p>	<p>◇ 「私たちの道徳」P120～121を読み、P131に自分が感じたことや考えたことを書き込ませる。</p>

出典：文部科学省HP「道徳教育アーカイブ～『道徳科』の全面実施に向けて～」

道徳教育アーカイブ ～「道徳科」の全面実施に向けて～

文部科学省では、「特別の教科 道徳」の趣旨や理念の実現を図るため、「道徳教育アーカイブ」を同省Webページに開設し、授業づくりの参考となる映像資料等を提供していますので、積極的に活用してください。 <https://doutoku.mext.go.jp/>

〔主な掲載内容〕

- ・道徳の実践事例（実際の授業の映像等）
- ・「考え、議論する道徳」の事例、指導案
- ・教育委員会等作成指導資料
- ・授業で使える郷土教材